

これを「岐良良」と呼んだ。

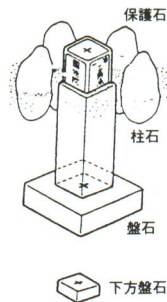
これらの鉱物粒は、カコウ岩のもとになったマグマが、地下深部でゆっくり冷え固まる過程（その時間は、数千年とも数万年ともいわれる。）で結晶したもので、混然となっていたマグマの成分が、目に見える形で個性を現してきたものである。

測量の基点—三角点

五十人山山頂には二つの丘があるが、現在無線塔の立っている丘の頂上には、「三角点」がある。別の二つの三角点との間で方位を測り、図上に三角形を書き連ねてゆくことによって、距離や地盤の水平変動を測定することからこの名がある。互いに見通せる山の頂上などに、きわめて精密に設置されているので十分な注意が必要である。

五十人山のまわりにも多くの三角点が設置されており、これを目安に山の名前を確認するのもよいだろう。

五十人山から東方を望むと、三角点がぼ南北に配列されている。それぞれ山陵の頂上にあるのだが、その東側は西側のなだらかさとは異なって、かなり険しい地形となっている。ここには、北北西～南南東方向に「畑川破碎帯」と呼ばれる断層帯が走っており、その影響が山陵の連なりと地形の険しさにあ



三角点

カコウ岩でできているが、はるばる広島から運んで設置されている全国の三角点の標石はみな同じ。中心の十字は東西南北を示している。